



学校の教育目標

- 自ら学び、自己を高める生徒
- 自ら考え、判断し行動できる生徒
- 健康で、心豊かに生きる生徒

生徒の実態  
保護者や地域の人々の願い  
現代社会の課題と要請  
教職員の願い

特別活動  
における道徳教育の指導の方針

◎特別活動における「体験的な活動」を道徳の時間の指導に密接に関連させ、双方の特質を生かしながら、好ましい人間関係や規範意識を育てる。また、実践活動の中で触れた道徳的価値について、その意義を自覚し、さらなる実践意欲の醸成に努める。

＜学級活動＞

○学級集団の一員としての自覚の下に、話し合い活動を中心にした望ましい集団生活や人間関係構築のための具体的な問題解決を図り、健康安全や進路選択、学業、心の内面の問題等の指導に努める。

＜生徒会活動＞

○生徒の異年齢集団である生徒会の自発的・自治的な活動を通じて、学校生活の充実と改善・向上を図る。特に活動の中で体験した道徳的行為や価値について、道徳の時間と密接な関連を図り、道徳実践力を高める。

＜学校行事＞

○学校生活に秩序と変化を与え、集団への帰属感を深めるとともに、学校生活の充実・発展に資する体験的活動を行う。特に、各種ボランティア活動を取り入れ、社会的な体験を深め、思いやりの心や奉仕の精神を学ばせるとともに、公德の心を養う。

生徒指導の方針

◎指導の重点  
1. 基本的生活習慣の向上  
2. 集団の一員としての自覚と、他人を思いやり、協力する態度を養う。  
3. 生徒会活動に自主的に取り組む態度を育てる。

◎指導方針

- 授業を重視する。
- 学級・学年活動を重視する。
- 生徒会活動を重視する。
- 部活動を大切にする。
- 安全教育を重視する。
- 全教職員の共通理解を基礎に統一した指導を貫く。
- 生徒理解を深め、的確な指導を行う。
- 保護者との話し合いを大切にし、地域・家庭の教育力を高める。
- 公共物や公共心を大切にする指導を重視する。

家庭・地域等との連携の方針

◎学校・家庭・地域が一丸となって連携し、道徳的価値に目覚めた自主的・自発的・自律的な生徒を育てるための情報や援助方法を共有する。  
○情報開示を原則として、定期的に道徳授業等を公開する。  
○地域やPTA等と連携して、地域の各種団体や保護者代表等との懇談会を開き、生徒の道徳性の育成についての共通の土壌作りを図る。  
○学校・保護者・PTA・地域等との連携を構築して、生徒の豊かな体験の機会と場を広げるとともに、保護者の子育て支援を図る。  
○学び舎の小学校や他校との情報交換や連携を密にするために、教職員とPTAによる連絡会・交流会を実施する。

道徳教育の重点目標

学校教育全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度、そして、「世田谷9年教育」で育てたい豊かな人間性、豊かな知力を養うために、下記の4つの項目を重点目標に定める。また、重点目標に基づき、各教科、教科「日本語」、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、これを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳実践力を育成するものとする。

1. 一人一人の個性を高め、命を尊び、健康で明るく、自らを振り返りながら積極的に行動できる生徒を育てる。
2. 相手の心を思いやり、人権を尊重し、協力して行動できる進取の気風に富んだ生徒を育てる。
3. 自然と人間の命のつながりを見詰め、崇高なものへのあこがれと畏敬の念をもった生徒を育てる。
4. 文化と伝統に誇りを持ち、国際社会の平和と進歩に貢献し、よりよい未来を拓く日本人の育成に努める。

道徳教育の重点項目内容

第一学年	望ましい生活習慣，心身の健康，節度節制 役割と責任の自覚，集団生活の向上
第二学年	反省と向上，個性の伸長 個性や立場の尊重，寛容の心，謙虚
第三学年	個性や立場の尊重，寛容の心，謙虚 人間の強さと気高さ，生きる喜び

特別の教科 道徳の時間の指導の方針

◎学校教育全般での道徳教育をさらに深化・補充・統合し、生徒一人一人が道徳的価値を内面的にとらえ、人間としての生き方について自覚し、主体的に道徳実践力を身に付ける時間とする。

○課題の設定や、資料の開発、資料の提示方法を工夫する。特に指導過程においては、生徒の実態に応じた発問や話し合いの方法を工夫する。また、ゲストティーチャーを活用し、授業の活性化を図る。

○体験学習を想定した主題や題材を扱う際は、学年や学校全体での指導の協力体制のもと、学級を超えての授業展開を工夫する。

○指導方法の改善に努め、体験学習を生かすなど学習活動の多様化を図る。また、プレゼンテーション方法等を工夫する。

○答えが一つでない道徳的な課題（いじめ防止、情報モラル）について一面的な見方から多面的・多角的に考え、議論する授業を目指す。特にいじめ防止に関しては区の実態として重点的に取り扱う。

人権教育との連携の方針

- 東京都の人権課題「障害者」「外国人」「災害に伴う人権課題」「性同一性障害」「性的指向」などに関わる偏見や差別意識の解消を図るための教育を推進する。
- 世田谷区重点課題「子供」「外国人」「障害者」「性自認」「性的思考」などについても、偏見や差別の意識の解消を図るように指導していく。」

各教科  
における道徳教育の指導の方針

国語：様々な文章を通して人間としての生き方について考える。  
社会：日本の地理・歴史・文化を学び、世界の国々にも目を向けて共生の精神を養う。  
数学：論理的に物事を考える力や、集中力及び忍耐力を養う。  
理科：自然を大切に作る心を養い環境保護への関心を導く。  
音楽：表現や鑑賞を通して、感性を磨き、生きる喜びを育てる。  
美術：美に感動する心を養う。  
保体：健康や命の大切さを学ぶ。  
技家：体験を通して、生活の充実を図る心構えを養う。  
英語：世界の文化に関心をもち、国際理解の基礎を養う。  
日本語：深く物事を考える生徒を育てる。

総合的な学習の時間  
における道徳教育の指導の方針

◎問題解決や探究活動を主体として、環境・福祉・健康・情報・国際理解等の社会的課題に、体験的・実証的・創造的に取り組み、学ぼうとする自己開発力を育てる。  
○道徳の時間と連携して、自然体験やボランティア活動などの社会体験の場を設け、実践的態度を育てる。  
○地域の人々の協力を仰ぎ、グループ学習や異年齢集団による学習等を工夫し、多様な人間関係の中で道徳的価値のさらなる内面化を図る。  
○地域との連携を図り、ゲストティーチャー等を招き、幅広い人材との出会いの場を広げる。

「人格の完成を目指して」

○月ごとのテーマを学級で確認することで常に意識をもたせるようにする。

教育環境の整備の方針

◎生徒の「心の居場所」となる生活・学習環境の構築と整備に努める。  
○学級・学校の文化的風土の基盤となる言語環境を構築し、展示・放送・新聞等、メディア環境の設営及び機能の活用 に努める。  
○校庭・校舎内における整理整頓を徹底して、清潔な環境保持に留意する。  
○生徒の通学・在学中の安全保全について、地域や関係機関との連携はもとより、学校内の警備体制とチェック機能の充実整備に努める。

特色ある教育活動

○世田谷9年教育として「みしまの森学舎」を推進し、小学校への部活動体験等に取り組んでいる。  
○ボランティア活動として、呑川周辺の落ち葉掃きに取り組んでいる。  
○毎朝、朝学活開始前の10分間を読書の時間として位置づけ全校を挙げて取り組んでいる。  
○教科「日本語」の推進。